

本年度、社会学研究室は98年に退任された井垣章二先生の後任として尾嶋史章先生をお迎えしました。先生は社会調査法、演習Ⅰ、Ⅱ、及び今年度は社会調査実習を御担当頂いています。先生は計量社会学が御専門です。統計を利用した分析を行っておられ、演習や社会調査実習では1995年に実施されたSSM調査（先生はその有力メンバーのおひとりでした）の個票を利用し、SPSSなどを使った統計分析法を講義され、社会学専攻に新風を吹き込んでくださっています。温厚な御人柄とアカデミックな手法は、学部生、院生に既に多くの影響を与えて下さっています。

今年、社会学専攻大学院は博士後期課程2人、前期課程9人、特別学生1人の新人を迎えました。その結果、博士過程の現有勢力は後期課程18人、前期課程24人、そして1人の特別学生、1人の研究生、合わせて44人の大きな大学院となりました。研究活動も活発で、本年6月5、6日に関西大学で行われた第50回関西社会学会では、三沢、天木、尾嶋先生を初めとして5人の院生、合わせて8人が報告を行って報告者のおよそ1割が同志社社会学関係者であったという快挙でした。今後とも様々な学会で同志社社会学の研究水準の高さと研究の活発さを披瀝して行きたいと思います。

今年度からはティーチング・アシスタント制度が拡充され、博士後期課程の学生のみならず前期課程の院生にもかなり多くの機会が配分され、教員の負担の一部が軽減されるとともに、院生諸君に教育の一端に触れる機会が多くなりました。また、この事は院生と学部学生の関係の強化にも繋がり、院生が学部学生の相談相手になったり、まだ数は少ないのですが学部生が院生の勉強会に参加するというケースも出てきています。これを機会に院生と学部生との緊密な関係が形成され、社会学専攻が学生レベルでも学部・院一体として運営できることは喜ばしい事と思います。

(服部)

## 98年度 修士論文題目

氏名	論文題目
藤井千帆	自殺に現れる中年の危機の研究
木下史生	現代社会における「現象」としてのミュージアムの研究
百瀬英樹	漢人伝統家族の構造的特質 ——結合と分裂に関する基礎的考察——
大淵敦子	北アイルランドにおける集団アイデンティティの形成
鈴木富美子	女性の就労と出生行動 ——労働と保育の両面から「仕事と子育ての両立」 支援策を探る——

## 執筆者紹介

河口 充勇 (かわぐち みつお)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
社会人類学、中国社会研究

平井 順 (ひらい じゅん)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
組織社会学、犯罪社会学

森津 千尋 (もりつ ちひろ)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
情報社会学

湯浅 俊郎 (ゆあさ としろう)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
地域社会学

小林 大祐 (こばやし だいすけ)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
消費社会学

安居 哲也 (やすい てつや)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
教育社会学、生涯発達社会学

星 真理子 (ほし まりこ)

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程  
農村社会学

(所属は 1999 年 3 月 31 日現在)

## ◆ 編集後記 ◆

『同志社社会学研究』第3号をお送りいたします。編集子の怠慢によりお届けする時期が遅れた事をまずお詫びしたいと思います。

本号の論考の多くは1997年度と1998年度に修士号を取得した人々がその修士論文を、その後の研究を踏まえてアブストラクトしたものです。しかし、森津論文は新たに書き下ろされたものです。教員の論文が本号では掲載できなかった事は残念でしたが、目次を見て頂いてもお分かり頂けるように、院生の関心は多岐にわたっており、それぞれがなかなかの力作です。お読み頂き、筆者あるいは編集子までご批評を戴きましたら、大いに励みになります。宜しくお願いいたします。また、本誌は同志社社会学会の会員の皆様の雑誌です。皆様からのご投稿をお待ちしています。 (服部)

## ◆ 編集委員 ◆

服部 民夫  
天木志保美  
加藤 信孝  
鯨坂 学  
粟谷 佳司  
上野 雪絵  
平井 順  
奥村 隆宏

### 同志社社会学研究 第3号

1999年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究学会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3441

FAX. 075-251-3066

印刷 協和印刷株式会社